



01

DRESS COLLECTION 2011

特別な今日、
私が一番輝くドレス

“あなたのための、あなただけの、最高ドレス。”
憧れの人気女優がプロデュースするキラキラ☆ドレスコレクション。定番のモチーフに留まらず、遊びゴコロが散りばめられたキュートなデザインは特別の日のあなたをいっそう輝かせてくれます。

01 フリル&レースたっぷりの
ゴージャスな一着

レースたっぷりのベアトップとハイウエストのエアリースカートを長いベールとの相性もぴったり。空間に負けない華やかさを印象づけてくれます。



03



02

モデル：岩井 恵理さん
2010年12月18日 挙式

02 海を感じる
クールビューティなドレス

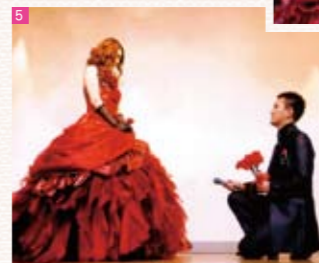
ウエストにレースのバラをちりばめた大人感満点のクールなドレス。デコルテを美しく魅せてくれるクリスタルとブルーのグラデーションが爽やかな一着。

03 カワイイピンクは
キュートな女子カラー！

光の角度でカラーを変えるシャンブレー効果のあるコーラルピンクのラメオーガンと黒いレース柄のグリッターも印象的。キュートな魅力あふれるドレスです。

vol.2 A couple of interview

海&クリスマスイメージしたハッピーウェディング
大切にしたのは“自分達らしさ”と“感謝の気持ち”



1青い海をバックにしたおふたり。白いブーケとラリエットが美しい杏奈さん。まるで海の女神のよう！
2お色直しの退場の際、白内掛けをばつと脱ぐと鮮やかな振袖に早変わり。会場を沸かせた演出は新郎のお母様のアイデア。3挙式ではブーケをならぬ男性陣も交えてプレゼントを。お友達思いのふたりからの楽しいサプライズ。4クリスマスカラーに彩られた会場にビビッドな赤のドレスがよく似合います。「ドレスが可愛くて最高でした！」(杏奈さん) 5ゲストのテーブルから集めたカーネーションをブーケにして公開プロポーズ。ぐっと思いを届けた新郎にも感謝！

圓城寺 央さん(24)
杏奈さん(24)

挙式日

2010年12月4日

共通の友人の紹介がきっかけで知り合ったおふたり。地元鎌子で生まれ育ったので海が大好き！海見えるチャペルでの挙式に憧れて、犬吠埼京成ホテルでの結婚式を決めました。披露宴の前にドレスとタキシードでのロケーション撮影を海岸やマリナ、灯台などで行い、観光客から「おめでとう！」と祝福してもらったことがとても嬉しかったそう。写真は3メートルの大きなウェルカムボードにして披露宴会場でも披露目し、ゲストからも大好評でした。

披露宴でこだわったのは「自分達らしい式にすること」。衣装やお色直しの順番、演出、料理までオリジナル性を重視。クリスマスシーズンを意識したキュートな色づかいの会場は和装にもドレスにも合うよう工夫しました。また随所に「家族への感謝」をイメージした演出も両親を思うふたりだからこそ。新婦の和装の着付けは新郎のお母様が担当、お色直しの赤いドレスは小さな頃、ピアノの発表会に新婦のお母様が手縫いで縫ってくださった思い出のドレスを意匠したもの。そしてラスト

の両親への手紙でしっかりと感謝の思いを伝えることが出来ました。「決まった枠にとらわれず、自由に自分達の夢を実現出来たので、大満足です！」と話してくれました。央さん、杏奈さんどうかお幸せに！

Essay

彩りと幸せの食卓
手島流ウェディングガイド

vol.2

今年はロイヤルウェディングブームが起こりそうなきざし



ここ近年のロイヤルウェディングは、民間の方との婚礼が増えており、記憶に新しいところでは皇太子妃雅子様のロイヤルウェディングをはじめ、スペイン・フェリペ太子と国営人気ニュースキャスターのレチシア妃の結婚など、民間からのお興入れが見られるようになりました。これはキャリアを積んだ女性の知性や経験が認められ、また色々な形で結婚後の国際的な活動や取り組みにつながっている事にも上げられます。

ウィリアム王子とお相手ケイト・ミドルトンさんとの婚約会見で、ケイトさんの指に光る、サファイアとダイヤの指輪は故ダイアナ妃のものであったことが報道されました。ロイヤルファミリーでは、この婚約指輪のように、結婚にまつわる様々な大切なものを、家族代々継承していくという考え方があります。食卓の上でいえば、ナイフ・フォークなどの銀製品やテーブルクロスなどの麻のリネン、祖母から母へ、母から娘へと何代にもわたって受け継がれます。自分の母親やファミリーから伝わる思いを受け継ぐと共に、上質なものを大切に長く使っていくという考え方は、結婚を機に新しいライフスタイルを築いていくおふたりにとって、大いに参考になることではないかと思えます。

今年のウェディングの流行はネイビーカラー

ファッションにおける今年の春・夏の流行色は、ネイビーです。ネイビーといっても、黒か紺か一瞬見ただけでは区別がつかないようなネイビーをうまく着こなすことは、おしゃれの上級者です。シルクなどの上質な素材ほど、ネイビーのような微妙な色合いのよさがよくわかりますので、お色直しのドレスなどに、こうしたトレンド色をベースにしたコーディネートをとりたいのもおすすめです。また、昨年から引き続き、量ではなく“質”にこだわったウェディングが目立っています。ゲストをもてなすお料理においても、その数の多さではなく、ひと皿ごとの質を高め、ゆっくり味わって頂くことが大切です。また、引き出物も、かさばるものよりも、コンパクトで実用的なものが喜ばれる傾向が続きますが、引き菓子も、家族皆で楽しめる、話題性のあるパティッシュのお菓子などが人気です。お料理にしても、引き出物にしても、たくさんの選択肢からおふたりらしいものを選ぶにあたっては、信頼できるウェディングプランナーとの出会いがとても重要です。プロの目線からのアドバイスを参考に、お二人ならではのこだわりを、是非実現させてください。



Coordinated by Makiko Tejima



テーブルコーディネーター 手島麻記子 Makiko Tejima

リアル・リッチな暮らしを提案するクリエイターとして食空間のコーディネート・コンサルティング等の分野で幅広く活躍。レストランやホテルに向けた、こだわりの“クチュールウェディング”で、数々のオリジナルウェディングをプロデュース、花嫁の支持を得ている。著書：「Osakeでスイーツ」「12のバリの物語」。

季節を創る晴れの膳へのこだわり

犬吠埼京成ホテルが贈る婚礼料理

まず第一は季節感。そして見た目美しく、食べて美味しい婚礼料理を心がけています。例えば春ですと筍や書き蕨、山菜、一皿一皿旬を感じていただくように盛り付けにも細部まで気を配ります。また左席料理をはじめとして、地中海料理、中華スィペルシノワと多彩なメニューをご用意しております。

鎌子は太平洋の玄関口。海産物が豊富に採れるので、ほとんど地のものを使っております。おめでたい金目鯛が一年通して採れるのもこちらならではです。新鮮で身の締まった金目鯛は刺身はもちろん、焼き物や煮付けにしてもとても美味しいので婚礼には欠かせません。和・洋・中すべての料理にアレンジできますが、中でもお客様からリクエストの多い刺身の御造りは皮と身が紅白で見ても美しく、お祝いの地酒ともよく合う港町らしい豪華な一品です。

地魚や貝などは漁港へ向かって自分で選ぶこともめずらしくありません。良い食材を仕入れるために地元の漁師さんたちとのコミュニケーションも大切にしています。新鮮なものを新鮮なままお客様に味わっていただきたいその気持ちをお料理に反映させております。



犬吠埼京成ホテル総料理長 三浦 敦典
千葉県出身。千葉県内の有名ホテルや料亭で日本料理を担当。2008年より犬吠埼京成ホテル総料理長。季節感を取り入れた繊細な会席料理には定評がある。

